

令和6年度
第3学年



授業シラバス 年間指導計画

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
技術家庭(技術科・家庭科)、英語
道徳、サイエンス

教 科 名		年間授業時数	学 年
国語		1 9 5	3
授 業 形 態		指 導 者 名	
一斉授業		郷野 拓海・景山 真基子	

教科書（発行所）	中学校国語 3（東京書籍）・中学校書写（学校図書）		
教科書以外の教材（発行所）	中学必修テキスト 3 単元別漢字 3 ウイニングPLUS中学校問題集国語 3 意味から学ぶ頻出漢字 3 0 0 0 国語便覧	(文理) (秀学社) (好学出版) (第一学習社) (浜島書店)	

目 標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	○知識及び技能 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ○思考力、判断力、表現力等 ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を通して、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容と発展学習の内容を中心に出題する。	
	範 囲 (予定)	第 2 回 考 査	「生命は」「二つのアザミ」「俳句の読み方、味わい方」「俳句五句」「形」「和語・漢語・外来語」「行書と仮名を書こう」「百科事典少女」「評価しながら聞こう」「間違えやすい敬語」「熟語の構成・熟字訓」「絶滅の意味」「恩返し井戸を掘る」「万葉・古今・新古今」
		第 3 回 考 査	「行書と仮名を書こう」「幸福について」「編集して伝えよう」「連語・慣用句」「四字熟語」「初恋」「観察・分析して論じよう」「おくのほそ道」
		第 4 回 考 査	「場面に応じて話そう」「論語」「何のために「働く」のか」「曖昧な文」「送り仮名」「故郷」
		年度末 考 査	「行書と仮名を書こう」「紛らわしい漢字」「間違えやすい言葉」「レモン哀歌」「生ましめんかな」「いつものように新聞が届いた」「最後の一句」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査、授業の中での考察、ノート、小テスト、提出した課題の内容などを適切に活用して総合的に行う。		
先生から アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	毎日の漢字テストに粘り強く取り組み、言葉の力の基礎を身につけていきましょう。予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理してみましょう。また、各教材末に置かれている「学びの扉」や授業中に配付されるプリントの問題を考えてみましょう。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すだけではなく、授業中の他の仲間の発言にも注意して、ノートに残すようにすると、自分の考えを広げることができます。 復習として、その日のうちに再度、教科書やノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておく、授業の内容を定着させることができます。古典分野では、覚えなければならない学習事項が多いので、予習・復習を丁寧におこないましょう。 なお、課題として配付している問題集は、解答の根拠となる箇所線に線を引きなど見える化し、答え合わせの際には解説をよく読み込み、理解を深めることを大切にしましょう。		

年 間 授 業 計 画 表 (4 5 分 授 業)

学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	「生命は」 「二つのアザミ」 「俳句の読み方、味わい方」、「俳句五句」 「俳句を作って句会を開こう」	2 3 4 2	・効果的な表現に注意して内容を解釈し、読み方を工夫して音読する。 ・読み取ったことをもとに、言葉と自分自身との関わりについて考えをもつ。 ・表現の工夫に注意しながら情景や心情を想像し、俳句を読み味わう。 ・俳句を作って互いに読み合い、作品のよさを評価する。
	5	「形」 「和語・漢語・外来語」	4 1	・場面ごとの人物の考えや人物どうしの関係を捉えて、作品を読み味わう。 ・和語・漢語・外来語の特徴について理解する。
	6	◎「行書と仮名を書こう」 「百科事典少女」 「他教科で学ぶ漢字(1)」	5 5 1	・行書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。 ・場面ごとの人物の考えや人物どうしの関係を捉え、作品を読み味わう。 ・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。
		「評価しながら聞こう」 「間違えやすい敬語」 「熟語の構成・熟字訓」	3 1 2	・話の内容や表現の仕方を評価しながら聞き、自分の考えを広げる。 ・間違えやすい敬語と、正しい敬語の使い方について理解し、適切に使う。 ・熟語の構成や熟字訓について理解し、漢字を文や文章の中で使う。
		「絶滅の意味」 「恩返し井戸を掘る」	5 3	・論の進め方や説明の仕方について考える。 ・読んだ本について感想を交換し、知識を広げ、自分の考えを深める。
		「万葉・古今・新古今」 《第2回考査》	5	・和歌の意味や使われている技法に注意して、鑑賞文をまとめる。
	9	◎「行書と仮名を書こう」 「幸福について」 「編集して伝えよう」 「連語・慣用句」、「四字熟語」	6 5 6 4	・行書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。 ・文章を読んで自分の考えを持ち、議論の仕方を踏まえて話し合う。 ・伝える目的や内容に適した文章の種類を選択し、構成を工夫して書く。 ・連語や慣用句、四字熟語について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
		「初恋」 「観察・分析して論じよう」	2 5	・表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 ・論の進め方を考え、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。
		「おくのほそ道」	5	・構成や表現の特徴と、その効果について考える。
	10	《第3回考査》		
後 期	11	「場面に応じて話そう」 「論語」 「何のために「働く」のか」	4 6 5	・場の状況に応じて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。 ・古典の言葉を読み味わい、自分の文章に生かす。 ・読書を通して自分の生き方や社会との関わり方を考え、自分の将来について考えをもつ。
	12	「曖昧な文」、「送り仮名」 「故郷」 「他教科で学ぶ漢字(2)」 《第4回考査》	2 6 1	・文の成分の順序など文の構成と、送り仮名の付け方について理解する。 ・作品を読んで考えを深め、社会の中で生きる人間について、自分の意見を持つ。 ・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。
		◎「行書と仮名を書こう」 ○百人一首 「紛らわしい漢字」 「間違えやすい言葉」 「レモン哀歌」 「生ましめんかな」 「いつものように新聞が届いた」	5 5 1 1 1 2 4	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列に注意して書く。 ・百人一首を通して、伝統文化を尊重する態度を育てる。 ・形や音の似た、紛らわしい漢字について理解し、漢字を文や文章の中で使う。 ・読み間違えたり書き間違えたりしやすい言葉について理解し、文章の中で使う。 ・効果的な表現に注意して詩を読む。 ・詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。 ・情報やメディアの意義について考えを深める。
	2	「最後の一句」 《年度末考査》	4	・文学作品を読み、人間や社会について考える。
	3	「話し合いで意見をまとめよう」 「今の思いをまとめよう」 発展学習 評論文・小説読解 古典演習	5 5 10 10	・進行の仕方を工夫したり、お互いの意見を生かしたりして話し合い、合意を形成する。 ・下書きした手紙を読み返し、文章を整えて清書する。 ・様々な文章を読み、読み取り方や文章構成について確認する。 ・古典作品を読み、表現技法や文法事項について確認する。
通 年		演 習	39	長文読解や小論文の記述、ディベート・ディスカッション等を行う。
		総 時 間 数	195	

教 科 名		年間授業時数	学 年
社会科（歴史的分野および公民的分野）		1 5 6	3
授 業 形 態		指 導 者 名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		中川一輝	

教科書（発行所）	新しい社会歴史（東京書籍） 新しい社会公民（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	実練テキスト（文理）、公民ワーク（学宝社） 他

目 標	（歴史的分野） ・歴史的事象の学習を通して、時代を大きく捉える見方・考え方を身に付ける。また、各時代の政治のしくみ、人々の生活、文化を多角的に捉えられる力を養う。 ・課題に対し、自ら調べ、対話を通して課題を解決する方法を身に付ける。 （公民的分野） ・現代日本の特色として少子高齢化・情報化・グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察する。 ・対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して課題を追求したり解決したりする活動を通して、市場の働きと経済をとらえる。 ・地理・歴史の学習をもとに、現代社会の特色と問題点をとらえる。 ・持続可能な社会を形成することに向けて、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を探究する活動を通して、自分の考えを説明・論述する。		
学習のねらい	（歴史的分野） ①各時代の歴史的事象を説明することができ、その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。 ②歴史的事象の中から、地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身に付ける。 （公民的分野） ③個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ④社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ⑤現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容、使用している副教材の内容から出題する。	
	(予定)	第2回考查	・地理的分野 ・歴史的分野 ・近代（後半）の社会 ・現代社会と私たち ・個人の尊重と日本国憲法
		第3回考查	・現代の民主政治と社会
		第4回考查	・私たちの暮らしと経済
		学年末考查	・地球社会と私たち
評価の観点・評価の方法	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 上記について、授業への取組（ノート・発表等）、自主学習、レポート、単元テスト、定期考查、学力達成テスト等の結果で総合的に評価する。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	様々な出来事や課題を図や資料、グラフなどから考え、理解していく力をつけていきましょう。また、知識の定着だけではなく、自分の言葉で説明できる力や問題に何度も挑戦する力を付けていきましょう。		

年 間 授 業 計 画 表 (45分授業)

学期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前	4	・近代（後半）と現代の日本と世界①	10	・江戸幕府の滅亡 ・明治維新の諸改革 ・立憲制国家の成立
	5	・近代（後半）と現代の日本と世界②	18	・日清・日露戦争 ・第一次世界大戦と日本・帝国主義 ・大正デモクラシー・世界恐慌
	6	・近代（後半）と現代の日本と世界③	19	・ファシズムの台頭 ・軍部の台頭と満州事変 ・日中戦争・太平洋戦争 ・本土空襲・日本の降伏 ・占領体制・日本国憲法と民主化 ・冷戦と世界のような・高度経済成長期・冷戦の終結・21世紀の世界
期	7	1 現代社会と私たち 2 個人の尊重と日本国憲法 《第2回考查》	16	・現代社会の特色（グローバル化・少子高齢化・情報化） ・私たちの生活と文化 ・現代社会の見方や考え方 ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障
	9	3 現代の民主政治と社会 《第3回考查》	20	・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み
				・地方自治と私たち
後	10	4 私たちの暮らしと経済	20	・消費生活と市場経済 ・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融 ・財政と国民の福祉 ・これからの経済と社会
	11	5 地球社会と私たち 《第4回考查》	18	・国際社会の仕組み ・さまざまな国際問題 ・これからの地球社会と日本
	12	*よりよい社会を目指して	15	・進むグローバル化の中で発生する国際的諸課題を理解し、日本の果たすべき役割を考える。
期	1	*社会的な課題の探究①	17	・地理的分野、歴史的分野をもとにして系統的な考察を通して、現代の社会を見直し、各自の考える持続可能な社会とはどのような社会なのかを考えまとめる。
	2	*社会的な課題の探究② 《年度末考查》 *社会的な課題の探究③		
	3	・高等学校の社会科学学習にむけて	3	・高等学校の学習を知る。
		総 時 間 数	156	

教 科 名		年間授業時数	学 年
数 学		195	3
授 業 形 態		指 導 者 名	
習熟度別による少人数授業		皿海和義、松本拓磨	

教科書（発行所）	新しい数学3	（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	体系数学2 幾何編	（数研出版）
	体系問題集数学2 幾何編 発展 完成ノート	（数研出版）
	数学I	（数研出版）
	4プロセス数学I 完成ノート	（数研出版）

目 標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。		
学習のねらい	1 「数と式」領域 ・ 数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 2 「図形」領域 ・ 図形の性質を三角形の相似条件を基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 ・ 観察、操作や実験などの活動を通して、三平方の定理を見いだし理解しそれらを用いて考察することができるようにする。 ・ 平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 3 「関数」領域 ・ 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出題する。	
	範 囲 (予定)	第2回考査 第3回考査 第4回考査 年度末考査	三平方の定理、数と式 数と式、集合と命題 集合と命題、2次関数 2次方程式と2次不等式、中学校3年間で習った内容
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目とする。 具体的な評価は、定期考査、授業への取り組み、章末テスト、小テスト、提出物の内容等から総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間、放課後等を利用して質問にくることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。授業ノートや授業プリントについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいように工夫してみましょう。		

年 間 授 業 計 画 表 (45分授業)

期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前	4	三平方の定理 三平方の定理の逆	5 3	・三平方の定理を利用して、辺の長さを求めることができるようにする。 ・三平方の定理の逆を利用して、直角三角形を見つけることができるようにする。
	5	三平方の定理と平面図形	15	・三平方の定理を利用して平面図形のいろいろな線分の長さを求めることができるようにする。 ・三平方の定理を利用して空間図形のいろいろな線分の長さを求めることができるようにする。
	6	三平方の定理と空間図形 章末問題	11 5	・三平方の定理を利用して空間図形のいろいろな線分の長さを求めることができるようにする。
期	7	整式の加法と減法 《第2回考查》	3	・整式を同類項でまとめたり、降べきの順に整理したりすることができるようにする。
	8	整式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 1次不等式	5 8 4 6 3	・公式を利用して、式の展開、因数分解ができるようにする。 ・平方根についての四則計算や2重根号の計算ができるようにする。 ・不等式の性質を理解し、1次不等式、連立不等式、絶対値を含む方程式・不等式を解くことができるようにする。
	9	絶対値を含む方程式・不等式 章末問題 集合	8 7 5	・集合に関する基本的な用語・記号を理解し、共通部分と和集合を求めることができるようにする。
後	10	命題と条件 《第3回考查》	8	・命題・必要条件・十分条件・逆・対偶・裏などについて理解し、背理法を利用して証明ができるようにする。
	11	命題とその逆・対偶・裏 命題と証明 章末問題	8 5	
	12	関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小 2次関数の決定 《第4回考查》	4 9 11 9	・2次関数について、そのグラフを理解し、表すことができるようにする。 ・2次関数の最大値・最小値について理解、活用することができるようにする。
期	1	2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式	7 9 11	・2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができるようにする。 ・2次関数のグラフを利用して、不等式を解くことができるようにする。
	2	章末問題 《年度末考查》 3年間のまとめ	8 13	
		総 時 間 数	195	

教 科 名		年間授業時数	学 年
理科		156	3
授 業 形 態		指 導 者 名	
一斉授業		奥野 晃司	

教科書（発行所）	未来へひろがる サイエンス3（啓林館）
教科書以外の教材（発行所）	実力錬成テキスト3年

目 標	自然の事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成する。 （1）自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 （2）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 （3）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。		
学習のねらい	〔生命〕 ○実験・観察を通して、生命の連続性について理解を深め、生命を尊重する態度を育てる。 〔地球〕 ○地球と宇宙に関する探究的な学習を通して、地球の自転・公転と天体の動きと関係や太陽系と恒星の特徴について理解を深めさせる。 〔物質〕 ○化学変化とイオンに関する探究的な学習を通して、水溶液の電気伝導性や電池のしくみ、中和反応についての理解を深めさせる。 〔エネルギー〕 ○物体の運動エネルギーに関する探究的な学習を通して、力の合成・分解、運動の規則性、エネルギーへの理解を深めさせる。 〔環境〕 ○日常生活と関連付けながら、自然界のつり合いや、自然環境の調査と環境保全、地域の自然災害、さまざまな物質とその利用、科学技術の発展を理解するとともに、それらについて調べ、科学的に考察する技能を身に付けさせる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	学力達成テストを実施
		第2回考査	生物の連続性（体細胞分裂と減数分裂、生殖、染色体とDNA、発生のしくみ、遺伝のしくみ）化学変化とイオン（水溶液とイオン 電池のしくみ 化学エネルギー アルカリと塩 pH）
		第3回考査	化学変化とイオン（酸と金属の反応 中和とpHの変化 物質質量）運動とエネルギー（物体の運動 運動と力 落下運動 自由落下の法則、運動の3法則）
		第4回考査	運動とエネルギー（力学的エネルギーと弾性エネルギー・運動方程式・仕事）地球と宇宙（宇宙の広がり 惑星と恒星）
		年度末考査	地球と宇宙（星地球の運動と天体の動き 月の満ち欠け） 自然と人間（自然界のつり合い 人間と環境 自然と人間のかかわり 科学技術と人間 科学技術の利用と環境保全）
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、自然事象への理解と科学的に探究するための技能、科学的に探究するために必要な思考・判断・表現、主体的に自然の事象に関わる態度の3項目とする。 ○評価の方法は、学習のまとまりごとの記述内容と定期考査、授業への取り組みのようす、課題の提出などをもとに、総合的に行う。また、章ごとに自己評価を行う。		
先生からアドバイス	理科の学習は、自然の事物・現象のなかに隠れている「理」について学んでいく学問です。日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。また、観察・実験を通して得られたことを図やグラフを描いて事実合うように考察し発表する態度を身に付けることも大切です。		

年 間 授 業 計 画 表

期 月	学 習 内 容	時 数	学習のポイント
前 期	4 「生命」生命の連続性 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 生物の成長とふえ方 ※細胞のつくりとはたらき ※体細胞分裂と数分裂のしくみ 2章 遺伝の規則性と遺伝子 ※DNAと染色体 ※いろいろな遺伝 ※遺伝の法則 3章 生物の種類の多様性と進化 力だめし (1)	(24) 11 8 4 1	○卵細胞と精子、5種類の動物の親子、染色体の顕微鏡写真をもとに、親から子への生命のつながりが広く生物界で起こっており、今、わたしたちがいることはどういうことかを改めて思い起こさせ、生命はつながっているということへの関心を高めさせる。 ○細胞のつくりを思い起こさせ、種子から根ののびる様子を観察させたり、細胞分裂の観察を行わせたりして、生物の成長を細胞の分裂と関連づけてとらえさせる。
	5		○身近な生物のふえ方を観察させて、無性生殖と有性生殖の特徴を見いださせるとともに、生物がふえていくとき染色体にある遺伝子を介して親から子へ形質が伝わることを、そしてその伝わり方に規則性があることを理解させる。
	6 「物質」化学変化とイオン 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 水溶液とイオン ※原子の構造と同位体 ※電子配置とイオン ※さまざまな結合 ※物質質量 ※元素の周期表 2章 電池とイオン 3章 酸・アルカリと塩 力だめし (1)	(34) 1 15 7 10 1	○生徒にとって意外性のある果物電池でモーターが回っている写真を大きく提示し、電池をより身近なものとしてとらえさせる。さらに、探究活動を設定し、科学の方法の一例を提示する。 ○水溶液に電流を通す実験を行い、水溶液には電流を通すものと通さないものがあることを見いださせる。次に電気分解の実験より、イオンの存在を見いださせ、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解させる。また、電池の実験を行い、電池は化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることに気づかせるとともに、イオンのモデルを用いて電池の原理が説明できるようにする。 ○酸やアルカリの水溶液を用いた実験を行い、酸やアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを見いださせるとともに、電離の様子をイオンのモデルを使って説明できるようにする。次に、中和反応の実験により、酸とアルカリが反応すると水と塩ができることを見いださせるとともに、中和反応をイオンのモデルを使って説明できるようにする。
	7		○作図によって合力を求めることができるようにする。次に、分力の求め方を理解させる。
	8		○いろいろな物体が運動を始めるときのストロボ写真を紹介し、運動が始まる原因を考えさせることにより、運動とエネルギーの学習への興味・関心を高めるようにする。
	9 「エネルギー」運動とエネルギー 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 力の合成と分解 ※三角関数 2章 物体の運動 ※運動の第三法則 ※いろいろな運動 3章 仕事とエネルギー ※エネルギー保存の法則 ※仕事量 4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用 力だめし (1)	(38) 1 11 10 8 3 4 1	○記録タイマーやストロボ写真をもとに、物体の速さや運動の様子を調べる方法を身に付けさせ、物体にはたらく力と運動との関係を理解させる。 ○仕事の量の求め方を理解させ、仕事の原理を見いださせる。また、仕事をする能力としてエネルギーを定義し、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと物体の高さや質量、速さとの関係を見いださせる。最後に、まさつ力や空気の抵抗がなければ力学的エネルギーが保存されることを理解させる。 ○身のまわりにあるいろいろなエネルギーについて気づかせ、それらのエネルギーはどのように移り変わるか理解させるとともに、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解させる。
	10		○人間は多様なエネルギー資源を消費して活動していることを知るとともに、将来にわたってエネルギー資源を確保し、安全で有効な利用と環境保全をはかることの重要性を認識させる。
	11		○太陽や星の見かけの動きから、地球の自転や公転という運動を見いださせる ○太陽の特徴を知るとともに、太陽系は銀河系に属すること、銀河系の外には別の銀河が多数存在することを理解させる。 ○太陽系の天体の特徴を知るとともに、惑星の動きや見え方、月の満ち欠けと日食・月食について理解させる。
	12 「地球」地球と宇宙 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方 力だめし (1)	(20) 1 5 8 5 1	
	1 「環境」自然と人間 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 自然界のつり合い 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして 力だめし (1)	(28) 1 5 5 4 8 4 1	○植物、動物および微生物を栄養摂取の面から相互に関連づけて捉えたとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いださせる。 ○学校周辺の身近な自然環境について調べ、人間の生活が自然環境に影響を及ぼしていることを理解させるとともに自然環境を保全することの重要性を認識させる。 ○日本の自然について、今まで学習してきたことを思い出させ、さらに地域の自然を調査し、自然からの恵みと災害についての理解を深めさせる。自然現象の監視や防災・減災などについても調べ、自然との共生の在り方について考えさせる。 ○科学技術の発展の過程について、どのようなものがあるかを理解させ、さまざまな科学技術の利用によって人間の生活が豊かで便利になったことを認識させる。
後 期	2 3年間の復習 発展的問題演習	12	
		156	

教科名	年間授業時数	学年
音楽	39	3
授業形態	指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業	川上 由紀	

教科書(発行所)	中学生の音楽2・3下 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)
教科書以外の教材(発行所)	音楽のハーモニー2・3下(正進社)

目標	音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を養う。		
学習のねらい	1 歌唱 曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌う。 2 器楽 楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫し表現する。 全体の響きに調和させて演奏する。 3 創作 楽器の特徴を生かした旋律を作り、表現する。 表現したいイメージや曲想を持ち、自由な発想による創作表現をする。 4 鑑賞 音と音との関わり合いや、速度や強弱の働きによって生み出される曲想の変化を感じ取る。音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術との関わりも理解し聴く。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽のハーモニーやプリント等から出題します。	
	範囲(予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	花、花の街、ボレロ、ブルタバ、リコーダーの奏法 等
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
		年度末考査	能、早春賦、尺八音楽、帰れソレントへ、Let It Be 等
評価の観点・ 評価の方法	・評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点とする ・具体的な評価は、普段の授業への取り組み(授業態度、授業プリントや音楽ノートの提出物等の記述内容、創作活動での作品やその過程での取り組み方 等)、定期考査、実技テスト(リコーダー、歌唱)から総合的に行う。		
先生からアドバイス	・みなさんの身の回りには、たくさんの音や音楽であふれています。まずは、聞こえてくる音に耳を傾けてみましょう。そして、心地良いな、心が動かされるなど感じる音や音楽を見つけてみてください。 ・音楽の世界はとても広く、そして奥が深いです。様々な音楽に興味を持つこと、また、「音楽のしくみ」を知ること、音楽とより楽しく、より豊かに関わることができます。音楽の授業にも、興味関心をもって、積極的に取り組んでみましょう。 ・音楽の授業は週1回です。1回1回の授業を大切にするためにも、準備物を忘れないようにしましょう。提出物も確実にしましょう。		

年間授業計画表(45 分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	日本語の歌の良さや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう ・「花」	4	・歌詞の美しさや旋律の特徴に関心を持ち、イメージを持って歌唱表現を創意工夫する。
	5	・「花の街」 音楽の特徴や背景を理解して、その魅力を味わおう	5	・音楽を形づくっている要素や、構造と曲想との関わり、背景などを理解して、良さや美しさを味わいながら聴く。
	6	・「ボレロ」 ・「ブルタバ」 音階の特徴及び音のつながり方の特徴を生かして、創作表現を工夫しよう	6	・音階の特徴を生かし、表現を工夫しながら旋律を創作する。
	7	・My Melody ＜第 2 回 考査＞		
	9	曲想や語感を生かして、歌唱表現を工夫しよう ・「帰れソレントへ」	4	・旋律の特徴を生かし、フレーズを考えながら歌う。
	5 ～ 3	リコーダーに親しもう ＊この題材は練習曲を継続して行う。		アルトリコーダーの基本的な奏法を身につけ正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
後期	10	能の特徴を理解し、その魅力を味わおう ・「敦盛」 ポピュラー音楽の特徴を理解し、その魅力を味わいながら歌おう ・「Let It Be」	4 2	・能に興味・関心を持ち、日本の伝統芸能として尊重し、その魅力を感じ取る。 ・歌詞と旋律が生み出す雰囲気味わいながら歌う。
	11	日本の伝統音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう ・「巢鶴鈴慕」	4	・尺八音楽の特徴や背景を理解し、その良さや美しさを味わいながら聴く。
	12	トーンチャイムで合奏を楽しもう ・クリスマスソングの合奏	2	・トーンチャイムの音色を味わいながら合奏を楽しむ。
	1	日本語の歌の良さや美しさを理解して、歌唱表現を工夫しよう ・「早春賦」	2	・歌詞の美しさや旋律の特徴に関心を持ち、イメージを持って歌唱表現を創意工夫する。
	2	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう ～卒業式に向けて～ ＜年度末考査＞	6	・歌詞の内容や曲想を味わうとともにパートの役割を理解し、曲にふさわしい表現を仲間と一緒に工夫して合唱する。
	3			
		総時間数	39	

教 科 名		年間授業時数	学年
美 術		39	3
授 業 形 態		指 導 者 名	
一斉授業		森 邦生	

教科書（発行所）	美術2・3上 学びの探求と未来 美術2・3下 学びの実感と広がり （日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目 標	描く活動と作る活動を通し、ものをつくり出す喜びを実感することで、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく意欲と態度を高める。 また鑑賞の能力を高め、美術文化についての理解を深めるとともに、個性豊かな美術の能力を高める。		
学習のねらい	1 絵画・彫刻などの活動を通して 二年間の経験をもとに、造形的な視点で対象を深く観察する力と、自己をより深く見極めて表現する力を身につけ、意図に応じて豊かに発想し構想する能力を身につける。 2 デザイン・工芸などの活動を通して 題材と素材を総合的に考え自分のテーマを生み出し、色彩や技法を使って効果的に表現する。また複雑な制作過程を順序立て、意欲的に見通しをもって進める。 3 鑑賞 日本及び諸外国の美術遺産を鑑賞し、その特質や文化や伝統などについての理解や見方を深め、美術を通じた国際理解を一段と深める。また自分との関わりを見つけ、表現活動に反映させる。		
定 期 考 査	出題方針	授業で制作した内容や配布プリント、教科書・美術資料から出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	鉛筆の技法、岡山の伝統工芸、うちわ制作、鑑賞問題
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
		年度末考査	色の属性と配色・トーン、抽象彫刻、鑑賞問題、実技問題
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、造形的な知識及び技能の習得、創造的な思考・判断・表現の能力、創作活動に主体的に、また粘り強く取り組む態度の3項目とする。 ○準備物や授業での態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・見通しを持った創作活動など制作過程での観点別達成度、作品の完成度、感想文による鑑賞能力の3つのポイントを統合して評価する。		
先生からアドバイス	今年度は義務教育最後の美術です。各課題の中で、伝統工芸や抽象表現と結びつけながら構想し、独特な材料を使い複雑な制作過程を通して表現します。 創作に打ち込む中で、自分の内面を深く見つめ、じっくり時間をかけて、思いの丈を表現する面白さを味わって欲しいです。 3年間の集大成となるような作品、自分の分身のような愛着を感じる作品を、苦勞して楽しみながら造りましょう。		

年 間 授 業 計 画 表 (45 分授業)

学 期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	「立体感と空間をとらえて」(絵画) ・身近なモチーフを組み合わせたデッサン	3	・鉛筆による物の形のとらえ方や陰影の表現の仕方を学び、描画材の特性を工夫して表す。 ・濃度の違う鉛筆の特性を理解し、工夫して表現に結びつける。
	5	「伝統工芸を味わう」(鑑賞) ・岡山の伝統工芸の鑑賞	1	・伝統文化のよさや美しさ、先人の工夫などに関心を持ち、日常生活で生かすことの喜びや価値を味わう。
	6	「風に想いを乗せて」(デザイン・工芸) ・岡山の伝統工芸の技法を応用したオリジナルうちわの制作	9	・夏や風を題材にイメージを広げ、題材や用途、材料の特性、制作順序などを総合的に考えデザインを発想する。 ・制作過程の見通しを持って制作する。
	7	《第2回考查》		
	8	「色の整理・トーン」(鑑賞・デザイン) ・身近にある配色とその効果を調査・分析して発表する。	6	・日常生活の中の色の働きに目を向け、色の効果に興味関心を持つ。色の効果を取り入れ、意図にあったデザインを構想する。
後 期	9			
	10	「抽象絵画の世界」(鑑賞)	1	・抽象絵画の歴史を知り、作品から自分が感じたことを手掛かりに鑑賞の仕方を探る。
	11	「イメージを形で表現しよう」(彫刻) ・自分の内面をテーマにした抽象的な石彫制作	15	・自分の内面を見つめ、気持ちや感情から主題を生み出し、抽象的な形に簡略化して表現する。 ・立体としての塊や量感と空間との関係を意識しながら、意図に合った表現方法を工夫する。 ・刃物の使用に注意し、リスクを回避する作業を心がける。 ・制作過程の見通しを持って制作する。
	12			
	1			
	2	《年度末考查》		
	3	「名画の中に入ってみよう」(鑑賞・デザイン)	4	・作品の成り立ちや作者の意図を読み取る。 ・班で役割分担を決め、ディスカッションしながら共同制作をする。 ・ICTを意図に沿って活用する。
総 時 間 数			39	